

令和7年度

大野小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎・基本を確実に定着させ、わかる喜びを実感できる授業の実践
- 児童が思考を巡らせ、表現できる授業の実践

校長

宮越 千佳

学力向上推進員

松本 裕美

【小中連携における共通の取組】

年4回の連絡協議会を中心に、互いの授業実践や効果的であった取組事例を共有し、それらを自校の教育課程や指導方法の改善に反映させる。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や、全教員での報告会を行うなど、様々な機会を捉え取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○タブレットの学習アプリを用いた学習に親しみ、隙間時間もドリル学習に取り組むことができている。 ●長い文章を正しく読み取ったり、多くの課題を時間内に終えたりする力には個人差が大きい。	(低)基礎・基本の定着と読解力を身につける。 (中)計算や漢字などの基礎的な知識・技能を正確に使い、単元テストや漢字スキルの正答率を8割にする。 (高)基礎・基本の定着に向け、単元ごとの評価テストで正答率が85%以上にする。	(低)タブレットのドリル学習に取り組み、個々の力を伸ばしていく。 朝の活動の時間に読書や視写をして読解力を養う。 (中)できたこと・できるようになったことを見える化し、児童の達成感を育てる。 単元途中や小テストで学習内容の確認と定着を図り、つまづきや誤答を分析し、指導に生かす。 (高)ミニテストやフラッシュカード、掲示物などを活用し、繰り返し学習に取りませることで、確実な基礎・基本の定着をはかる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○タブレットやホワイトボードを用いて考えを表現したり、プレゼンテーションをしたりすることに親しんでいる。 ●必要な情報を適切に判断して読み取ることや、自分の考えを簡潔にまとめて表現することに課題がある。	(低)自分の意見や考えを相手に分かりやすく伝えることができる。 (中)自分の考えを、文に書いたり友達に話したりすることができる。 友達の意見を聞いて、思ったことを発表することができる。 (高)課題を解決するために協働的な学習に取り組むことができるようにする。	(低)自分の考えや意見を文章に書く活動を重視し、書く力を身につける。 (中)考えを引き出す問い、広げ深める問い、といった問いかけを工夫したり、タブレットやホワイトボードで考えを可視化させたりして、支援者として児童に寄り添う手立てを充実させる。 (高)プレゼンテーション学習、話し合い活動、調べ学習などの協働的な学習を通し、習得した知識・技能を活用できるような学習場面を授業内に週3回以上確保する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いて生活し、課題に意欲的に取り組もうとしている児童が多い。 ○90パーセント以上の児童が「学校が楽しい」「授業の内容を聞いて理解している」と感じている。 ●与えられた課題には取り組めるが、自主学習や読書などに主体的に取り組める児童は少ない。	(全)家庭学習として、宿題と次の日の準備を行うことができる。 (低)望ましい学習態度を身につけ、進んで意見や考えを伝え合える児童を育成する。 (中)自分に合った学習内容や方法を選択できる。 (高)課題をつかみ、自分に必要な学習内容や方法を選択できる。	(低)始業までに学習準備を整え、チャイムスタートできるようにする。 低学年で共通したルールを作り、徹底する。 授業の中でペアトークやグループ活動などを取り入れ、話し合い活動を活性化させる。 (中)選択肢から課題を選んだり、課題の量や難易度、課題解決に誰と取り組むか(個人・グループで等)を児童が選択できる場面を取り入れる。 (高)学習ごとに振り返りを書かせる時間を確保するとともに、学習の仕方を理解させるようにする。			